

# 「柏原月山」追悼展覧会

霊眼でみる。水墨画を描く哲学

開催日 平成30年5月18日(金)19日(土)2日間

時間 18日(金曜日) 午前11時～午後8時まで  
19日(土曜日) 午前11時～午後5時まで

会場 「SEMBA10プレイス」 大阪地下鉄御堂筋線・中央線「本町駅」

大阪市中心部 船場センタービル10号館地下1階地下鉄直結

2017年9/17、約2年半多くの方に支えて頂きながら肺癌の闘病しておりました原田勝彦が多くの思い出と作品を残し旅立ちました。

本展は、生前ご縁のあった方々に柏原月山こと原田勝彦と対話して頂き偲んで頂こうとするものです。

今回は、1960年代から70年代の札幌オリンピックや大阪万博の作品(水彩画)晩年の禅の思想を描いた水墨画(南画)迄をエピソードを交え抜粋して展示する予定です。当日は最晩年「いつでも誰でもお茶を飲みながら絵を見てもらえる場所を作りたい」と言っていた夢を叶え期間限定のサロンデテを催したいと思えます。

作品を描く事が自らの心を癒し導いてくれると言っていた月山を身近に感じて頂ける事と思えます。お忙しいと思えますが是非お出かけ下さい。

## 2016年船場書画展

通称：柏原 月山 (カイバラガツサン)、  
本名：原田 勝彦、雅号：柏 勝寅月山(ハク ショウイン ガツサン)、書号：並び賦号：月読楽山人(ツクヨミノラクサン)、墨歴：六十七年(水墨画・書共に)  
書は一九四四年国民学校入学以後、学業並びに修科目としての書道を切掛けとして現在まで、継続し独学にて王羲之を始めとして空海、貫名松(ぬきなすい)翁(ぬきなすいおつ)(海屋)顔真卿(がんしんけい)、等の書写により学ぶ、かな文字は口展會員有城青柳師匠に師事。漢詩、賦歴：五十八年、剣道、剣歴三十五年是以外には己の修行の為に仏像に帰依し宿老職を拝受して居る。謀宗修行歴五十年

## プロフィール



## 柏原 月山

KAIHARA GATUSAN

### 吾、生涯の沿革

現在年齢七十七才の老境に達し、昨年の春より、肺腺癌に伏し七転八倒の病床生活に入り雅に一年と半を過ごしています。この様な事で今年一月に描いた私の病床での不思議な体験に依る、作品「神々の誘いと生命の神秘」が私の絶筆に成るのではと思いつ、真の霊眼によって描いたものです。私の、絵を描く時の心は若い頃より、常に自然の中に、溶融し神との気の融合を重ねて来た様な想いです。やはり、幼い頃に戦時の疎開が元で農村地帯の南河内に移住したのが、私には幸を奏したものである。そうした恵まれた自然の環境の中で、神から授けられた自然の息吹が、私の絵への興味を掻き立てたのだと思う。その様なことから、周囲を取り巻く自然の風は人一倍接するようになった、以来六十七年間独自の描法を構築して水墨画を描いた、その後も家業に強いられる中に於いても機械設計を独学で習得し又平版印刷の製版技術等あらゆる技術に挑戦し工芸高校で学んだデッサン図案法(構図法)色彩学を含むグラフィックデザイン、イラストレーションも現在の水墨画の政策には役に立っているし、それらに関連する特殊資材を知り活用し得たのも幸である。是らは私の描画技術のオリジナリティを生み出す結果と成っている。でき得ればこうした独自の技法と水墨画として精神物理など私が過去に得た一部でも皆様に伝えたい。特に水墨画を解するには技術のみの単純なものではなく如何に精神の運用が重要かと言ったことも含めて後世に伝承する義務を感じている。また、船場書画展にも発起当初から、会長池永純造氏には、奇縁を賜り、今では切るに無い絆と成り、浪速、船場発の唯一誇れる文化としてこの水墨画を通じて「船場書画展」の名を大阪中心地に未だに残したいと心より念じております。



大阪市中央区  
船場センタービル  
10号館地下1階地下鉄直結

facebook船場書画院



# KAIHARA GATUSAN



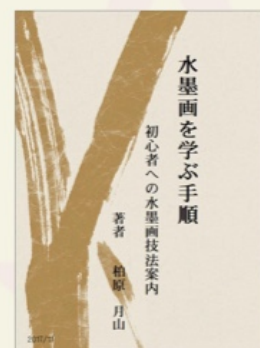
「早春賦」(奈良下市図)



早春のいまだ風は冷たくはだを刺す吉野下市の古村を  
尋ねた、白木蓮の花が万年変わらぬ春を迎え谷間の流  
れは清く静風は松の葉にそよいで居る。



アトリエにて



著書 「あなたは、水墨画をどう思いますか」  
水墨画三十二の真理と実証  
「水墨画を学ぶ手順」  
初心者への水墨画技法案内